

北海道原水協 F A X ニュース

原水爆禁止北海道協議会 エメール hokkaidogensuikyo@pearl.ocn.ne.jp
電話011 (747) 7557 fax011 (747) 7537 2018年 3月12日

私たちが、禁止条約に参加する政府をつくらう

被爆の実相を広げ、署名の共同一層広げて、禁止条約の発効めざそう■

北海道原水協は3月10日、札幌市内で2018年度全道総会を開きました。参加した10団体・15人、13市区町村原水協・18人は、運動方針の提案を受けて、積極的な討論がおこなわれました。「ヒバクシャ国際署名」は17万189人(2月末)、140自治体首長の賛同、ヒバクシャ国際署名をすすめる北海道民の会に44万人以上の署名が集約されていること、署名の共同が一層進んでいることが報告されました。8月の原水爆禁止世界大会・広島大会に200名の派遣めざして奮闘することを決めました。国民平和大行進、原水爆禁止世界大会はじめ一つひとつのとりくみを通じて、原水協の組織を強化しようといよびかけられました。(写真/開会挨拶する國田昌男代表理事)



日本政府を核兵器禁止条約に参加させることが被爆国の運動に課せられた責務、私たちが核兵器禁止条約採択に貢献したことに誇りと確信をもって、条約発効めざして一層共同を広げ奮闘する決意を固めました。選出された役員、代表理事は◎石岡伸子(新婦人北海道本部会長)、◎尾張聡(北海道高教組執行委員長)、黒澤幸一(道労連議長)、堺慎(北海道民医連会長)の5氏、事務局長は嶋田千津子です。



「再びあの地獄をくり返してはいけない。ふたたび核兵器を使わせてはいけない。私たちの心からの叫びです。私も85歳、あと何年被爆体験を話せるか、いつもこれが最後かなあと。一日も早く禁止条約を発効させる日を迎えたい」と北海道被爆者協会副会長の松本郁子さん(左写真)は、来賓あいさつで一語一語かみしめるように話しました。

総会参加者は、ノーモアヒバクシャ訴訟・名古屋高裁判決に上告するなどの要請faxに協力しました。総会終了後、土田弥生日本原水協事務局次長を講師に、『禁止条約を力に核兵器のない世界を』と学習会をおこないました。

ゆゆゆ 発言の一部を紹介します ゆゆゆ

- 署名をコツコツ集めたことが条約を採択させたこと、新婦人各支部で平和2署名を中心に市役所、消防署、農協など外に外に、世界大会参加者に依拠して、多彩な行動が報告された。
- 何でちゃんと役員会やらないんだと加盟団体から声が寄せられ、昨年再建総会を開いて、毎月1回幹事会、6・9行動と続けている。禁止条約ができて本当に元気になった。世界大会代表派遣についても幹事会で検討を始めている。
- 3月議会に日本政府への意見書を請願し、いよいよ3月20日の本会議。コープさっぽろエルフィン店に申し入れ、店内で署名行動。3000万署名と一体で、2018年ジャンプめざして。
- 世界大会から帰ってきた人に「僕、何したらいいですか」と言われ、日にちを決めて行動している。元気に、楽しく署名できるように、地域ごと力を借りるように工夫している。
- 世界大会に参加した青年を、平和運動を担っていくよう育むことをめざしている。2020年NPT再検討会議も視野に、平和運動の担い手を。
- 世界大会に参加した高校生が、署名のとりくみや被爆者の話を聞いてすごいと感性豊か。青年を育てていきたい。被爆の実相、被爆者の話を聞ける最後の世代として責任がある。

発言者 ⇒新婦人北海道本部の鈴木由妃江さん/小樽原水協の北野義紀さん/北広島原水協の佐藤礼人さん/苫小牧原水協の篠原昌彦さん/道北原水協の霜野洋一さん/帯広原水協の櫻谷和博さん/北海道非核の会の川島亮平さん/北海道勤医労の田村優実さん/江別原水協の宮田美津江さん/七飯原水協の橋向功さん/岩見沢原水協の山本真智子さん/北海道民青同盟の宮内史織さん

